

【ねがいましては】

令和2年6月25日

KYOWA SCHOOL

第355号

「今をがまんしてください」

ある日の新聞に詩が載っていました。

一日を我慢して 二日目我慢してください

それが三日になり一か月になり やがて一年になります そして五年がたちます

そのとき きっと今とはちがいます ですから 今を我慢してください

川崎 洋『ことばの力』岩波ジュニア新書

この作品は、詩人の川崎さんが17歳になる次女から依頼を受けたのだそうです。

半年の内にご両親を相次いで亡くされた友だちに贈りたいからと言われ作ったそうです。

川崎さんは悩みに悩んだ末、一緒に悲しむしかないという結論に達したそうです。そしてできた作品だそうです。

一緒に悲しむしかない・・・つまり寄り添ってあげることです。哀しみしかないその境地にしてあげられること。

一緒になってあげることです。「ひとり」そして「ふたり」へ・・・。

私も60余年を生きてきて、このようなことは初めてです。学校が長期のお休みになり、一部の方々は、休業や一時休暇を余儀なくされることになり、中には失職される方も現れ、様々な形で以前とは違った不憫な生活を強いられることになりました。それは今でも進行形の形です。

先が見えない、想像がつかない、それでも毎日を生きる・・・。兎にも角にも、家族だけは健康でいたい・・・。最低限の祈りだと思います。

学校がお休み中のとき、1度も新聞に出てこなかった記事があります。子どもの自殺です。6月から再開し、時折新聞記事の中に現れ出しました。中学1年生になったばかり、部活動でいじめを受けていた内容の記事がありました。ご両親の胸中は想像を絶するものです。

今回のコロナウイルスによる感染者は、世界で1,000万人を優に超えました。そのひとりひとりの方々にも家族がいらっしゃいます。家族は皆、不安な日々を過ごしていると思います。親戚の方々も心配されているでしょう。そうなれば1億人以上の方々为患者を思い、心配な日々を過ごされることになります。死者も50万人を越えたそうです。なんと市川市が約50万人の人口だそうで、つまり、突然市川市がなくなってしまった規模になります。その方々にはやはりご家族や親類の方々が多くいらっしゃるはずで。

学校が始まり時間割も元通り、それどころか6時間授業が7時間授業になり、部活動も再開し・・・。定期テストもしっかり行われ、受験生たちには来春、いつも通りの受験がやってきます。気持が不安定になる子たちが現れておかしくはありません。

そんなとき、変な理屈はなしにして、ただただ『寄り添う』・・・。ことばはいりません。そばにいてあげるだけで、それでよしです。

その記事の後半に、ひとりの高校生のことばがあります。「お年寄りのために私ができるのはマスクを忘れないでいることです。」

マスクひとつで、ひょっとしたら尊い命を救うことができるかもしれない。人としてかけがえのない『こころ』をしっかり行動にうつしています。

今、自分が自分ひとりだけで、何が良くて何が良くないことなのか、しっかりと考え行動をとる。その責任を強く学ぶときなのだと思います。集団心理だけはやめて戴きたいものです。

いじめは集団心理の表れです。周りの子たちが皆やっていることなのだから自分だってやってもかまわない。その集団がいじめです。その被害に遭われた方々をはじめ、その光景を見ながらも阻止できなかった自分に強い自戒の念を抱いている子たちもたくさんいると思います。

そのような中で、そっととなりの子にこころのアンテナをのびし、苦しんでいたら寄り添ってあげる。ことばはいらない、時間がたち、やがて被害を受けた子がぼつっと口を開くときがあるかもしれません。それがさきほど書かせていただいた、最後の行になります。

『そのとき きっと今とはちがいます ですから 今を我慢してください』 ひとりではありません。あなたのとなりにいつもいますから・・・。がまんはやがて友情や愛情を生み出すかもしれません。

それが家族だと思います。

朝、目覚めたとき、そっと眠る子を覗いてみる。すやすやと小息をたてながら眠っている姿は、まさにその瞬間なのだと思います。ことばはなくとも安心して寝ている姿が、自らを安心に導いてくれる。その毎日の積み重ねが『しあわせ』を感じさせてくれるのだと思います。

ここで真剣に黙々と向かう子等よ、『しあわせ』をありがとう。